

第3次日野市環境基本計画 施策体系図



基本理念

自然豊かで環境負荷の少ない社会を実現し、
将来の世代に継承する

望ましい環境像

環境に関心を持ち行動する人を育て
受け継いだ自然環境を次の世代につなぐまち

6つの分野別に基本目標を設定し、実現に向けて
「施策の方向」を示しています。



I 基本目標:気候変動緩和・適応を実現するまち

関連計画	日野市地球温暖化対策実行計画
計画の概要	地球温暖化対策の推進に関する法律第21条、及び気候変動適応法第4条に基づき、策定した計画。地球温暖化対策に関する目標や実施する措置の内容、その他計画の実施に必要な事項を定めるもの。 日野市地球温暖化対策実行計画の目標として、2030年度に-46%、2050年に排出量実質ゼロを目指す事としている。 (ともに05年比)
施策の方向	i 温室効果ガス排出削減・吸収等による緩和 ii 地域特性に合った適応

i 温室効果ガス排出削減・吸収等による緩和

令和7年度の取り組み

- ・市内バスのラッピング作業中。脱炭素・二酸化炭素削減の啓発
- ・省エネ家電買換え促進事業を実施
- ・公共施設駐車場へのEV充電設備の設置(南平体育館、本庁舎)
- ・公共施設の実質再エネ電力調達について、対象施設を拡大し、継続
- ・市内保育園・幼稚園15園で環境学習を実施。子供やその保護者へ二酸化炭素削減について啓発
- ・令和6年度より気候YOUTH会議を開催。20代以下の若年層が気候変動に対する取組を検討

短期課題 (直近、3～5年視点)

- ・地域脱炭素に向けた具体計画(ロードマップ等)の策定と実行

長期課題 (10～20年視点)

- ・2030年CO2マイナス46%、2050年CO2実質排出ゼロの実現に向けた計測とマネジメント
※特に家庭部門におけるCO2削減

令和8年度の取り組み (予定)

- ・市民から募集した作品をミニバスにラッピングし、地球温暖化対策について啓発
- ・家庭部門における対策の強化
- ・令和7年度に続き、気候YOUTH会議を実施

ii 地域特性に合った適応

令和7年度の取り組み

- ・熱中症対策講座をイオンモール多摩平の森で実施
- ・令和6年度からクーリングシェルターを拡充
- ・中央公園にミストポールを設置
- ・日野市環境フェアを開催予定だったが、衆議院選挙に伴い開催中止

短期課題 (直近、3～5年視点)

- ・地域特性に合った計画(地球温暖化対策実行計画・ロードマップ等)の見直し・実行
- ・毎年の記録的な酷暑対応

長期課題 (10～20年視点)

- ・変化していく地域・気候に合わせた適応策の検討

令和8年度の取り組み (予定)

- ・引き続きクーリングシェルター事業を実施し、指定施設の拡大を推進
- ・熱中症活動の啓発・広報活動を実施し、「適応」視点の施策強化
- ・日野市環境フェアを開催。市民向けに、適応の取組を周知。

基本目標:多様なみどりをつなぐまち

関連計画	日野市みどりの基本計画
計画の概要	市民と関わりの深い市内の様々な「みどりと水」をこれからどのように守り、育てていくのかを定めた法定計画であり、主にみどりの現状やみどりに対する市民ニーズを踏まえ、「緑地の保全及び緑化等の目標」、「緑地の保全及び緑化の推進等の施策」を示し、総合的かつ計画的に実施するもの。
施策の方向	i 丘陵地・崖線のみどりの保全 ii 街なかのみどりの保全・創出・育成 iii 協働によるみどりの保全・創出・活用

関連計画	日野市農業振興計画・アクションプラン
計画の概要	農業施策を総合的かつ計画的に推進するため、日野市が目指す農業振興の方向性と今後の施策展開を示すもの。
施策の方向	ii 街なかのみどりの保全・創出・育成

i 丘陵地・崖線のみどりの保全

令和7年度の取り組み

・ナラ枯れ病の動向に引き続き注視した上で調査を行い、優先度を考慮しつつ適切に対応する

短期課題
(直近、3～5年視点)

・ナラ枯れ病の被害

長期課題
(10～20年視点)

・樹木の老木化、大木化などに伴う緑地の管理財源の確保

令和8年度の取り組み
(予定)

・引き続き市有地内の枯損木の処理を進める

ii 街なかのみどりの保全・創出・育成(日野市みどりの基本計画)

令和7年度の取り組み

・現行の「街路樹キーパー」、「公園清掃ボランティア」の募集をホームページなどで市民に呼びかけ

短期課題
(直近、3～5年視点)

・イニシャルコスト、ランニングコストの検証

長期課題
(10～20年視点)

・管理財源の確保

令和8年度の取り組み
(予定)

・みどりの基本計画改定の実施(令和9年度まで)

ii街なかのみどりの保全・創出・育成(日野市農業振興計画)

令和7年度の取り組み

- ・援農ボランティア育成事業である農の学校制度を持続可能な事業となるよう改善
- ・農地貸借制度について、農業者に周知を行い、農地貸借を促進

短期課題
(直近、3～5年視点)

- ・援農ボランティア制度の見直し

長期課題
(10～20年視点)

- ・環境保全型農業の推進

令和8年度の取り組み
(予定)

- ・援農ボランティア育成事業である農の学校制度を継続
- ・農地貸借制度について、農業者に周知を行い、農地貸借を促進

iii協働によるみどりの保全・創出・活用

令和7年度の取り組み

- ・ボランティア団体への補助制度の新設
- ・日野市における「雑木林ボランティア」として活躍する人材を育成
- ・みどりの推進委員と協力し、みどりに関する普及啓発を実施

短期課題
(直近、3～5年視点)

- ・ボランティア団体との連携及び支援の強化

長期課題
(10～20年視点)

- ・ボランティア団体の高齢化

令和8年度の取り組み
(予定)

- ・用具の貸出制度の創設
- ・安全研修の実施

基本目標:豊かな水環境をつなぐまち

関連計画・根拠	日野市清流保全—湧水・地下水の回復と河川・用水の保全—に関する条例
考え方	市内の日野台地の崖線や多摩丘陵の裾部には多くの湧水点があり、豊かな水環境を構成しています。みどり同様このような空間は、非常に重要な環境要素であり、これらの維持保全に取り組みます。
施策の方向	i 地下水・湧水の維持・保全 ii 河川・用水の保全・活用 iii 協働による水辺の保全・創出・活用

関連計画・根拠	日野市下水道プラン
計画の概要	・公共下水道(汚水)の普及率を高め、公共水域の水質の改善を図る ・グリーンインフラの取り組みを促進し浅川の流量や地下水・湧水の維持保全を図る
施策の方向	ii 河川・用水の保全・活用

i 地下水・湧水の維持・保全

令和7年度の取り組み

・市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査

短期課題 (直近、3～5年視点)

・市内の湧水調査を実施しているが、広報活動や水循環に寄与する方策へデータを活用できていない

長期課題 (10～20年視点)

・区画整理や宅地化によって、植物が減ることによる地下水の減少

令和8年度の取り組み (予定)

・市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査する。調査結果をもとに、地下水かん養、水辺の環境保全から水利用、治水までを含めた水循環に寄与する方策を検討する

ii 河川・用水の保全・活用(日野市清流保全条例)

令和7年度の取り組み

・多摩川クリーン愛好会など河川敷の美化・保全活動を行なっている団体や個人へ支援を実施

短期課題
(直近、3～5年視点)

・現場作業員やボランティアの高齢化や人手不足

長期課題
(10～20年視点)

・現場作業員やボランティアの高齢化や人手不足

令和8年度の取り組み
(予定)

・多摩川・浅川クリーン作戦などの実施により、河川敷の美化・保全活動を行うことでマナーアップの向上を図る
・多摩川クリーン愛好会や用水守など河川敷の美化・保全活動を行なっている団体や個人へ支援を行う

ii 河川・用水の保全・活用(日野市下水道プラン)

令和7年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・污水管整備工事799.2mを実施・第2次日野市下水道プランの中間評価及び計画の見直しを実施し、第2次日野市下水道プラン(後期計画)を令和8年3月に策定予定
短期課題 (直近、3～5年視点)	<ul style="list-style-type: none">・令和7年度までの目標値として下水道処理人口普及率97.1% 接続率※1を98.7%と定めているが未整備エリアのほとんどが土地区画整理事業区域内のため、目標の達成は、区画整理事業の進捗状況に大きな影響を受ける
長期課題 (10～20年視点)	<ul style="list-style-type: none">・令和12年度までの目標値として下水道処理人口普及率を98.1% 接続率※1を98.9%と定めているが未整備エリアのほとんどが土地区画整理事業区域内のため、目標の達成は、区画整理事業の進捗状況に大きな影響を受ける
令和8年度の取り組み (予定)	<ul style="list-style-type: none">・污水管整備工事863.0mを実施予定

※1

下水道プランの見直しに伴い令和8年度より「接続率→水洗化率」となります。意味は同じです。

iii協働による水辺の保全・創出・活用

令和7年度の取り組み

・流域連携による水源かん養の活動や、水辺づくりなどを通じた啓発活動を推進する

短期課題
(直近、3～5年視点)

・水辺の楽校及び水辺のある風景日野50選ガイドツアーが今後も継続実施できるよう、指導者の確保

長期課題
(10～20年視点)

・水辺の楽校及び水辺のある風景日野50選ガイドツアーが今後も継続実施できるよう、指導者の確保

令和8年度の取り組み
(予定)

・流域連携による市民参加イベントの相互乗入れを通じた啓発活動を推進する

基本目標:人と多様な生きものが共に暮らせるまち

関連計画	ひの生きものプラン～日野市生物多様性地域戦略～
計画の概要	「みどりと清流のまち ひの」を持続可能なまちづくりの根幹に据え、将来にわたる日野市の目指すべき生物多様性の姿と、それを実現するための具体的な取組を示したもの
施策の方向	i 人々の生物多様性に係わる関心の増進 ii 生きものと共に暮らせる人と自然のかかわりの創出 iii 日野らしい自然の保全・育成

i 人々の生物多様性に係わる関心の増進

令和7年度の取り組み	<p>【親水イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釣りイベントの開催時期の調整 ・釣り以外の手段による生物多様性の情報発信の検討 <p>【カワセミハウス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カワセミハウスでの展示、セミナー等を開催し、日野の自然環境のすばらしさ、大切さを市民に周知 写真展「日野のトンボたち」「企画展「日野の植物たち」写真展「日野の野鳥たち」開催 ・カワセミハウス協議会環境分科会によるイベント開催 ・ひのどんぐりクラブとの協働により主に小学校での環境学習を支援
短期課題 (直近、3～5年視点)	<ul style="list-style-type: none"> ・猛暑日増加の影響による熱中症対策や開催時期の見直し ・市民団体との連携強化 ・日野の豊かな自然に興味を持つ市民の掘り起こし ・X(旧Twitter)やLINEなど、市民のニーズに合わせた情報発信が不十分
長期課題 (10～20年視点)	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化による魚の減少 ・「カワセミハウス」を長期運営していく人員の確保 ・市民一人一人が自分で関心が持てる自然に対し行動ができる情勢形成
令和8年度の取り組み (予定)	<p>【親水イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、熱中症対策含め、安心安全なイベントとするため、規模や開催時期、内容の見直しを行う <p>【カワセミハウス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カワセミハウスでの展示、セミナーを引き続き工夫を加えながら取り組んでいく ・カワセミハウス協議会環境分科会によるイベント開催 ・ひのどんぐりクラブとの協働により主に小学校での環境学習を支援

※今回から新しく課題として追加したものを赤字で表記しております。

ii 生きものと共に暮らせる人と自然のかかわりの創出

令和7年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・水とみどりを守る意識を持った人材を育成するため、市民講座(日野市民環境大学、黒川マイスター講座)を実施・カワセミハウス北の斜面下に黒川マイスターが作ったビオトープの管理作業の継続・カワセミハウス協議会環境分科会と黒川マイスターの協働により、黒川清流公園わきみず池の泥さらいと小池を復活するプロジェクトを実施・旧百草大コミュニティセンター内のビオトープの継続的な保全作業
短期課題 (直近、3～5年視点)	<ul style="list-style-type: none">・環境保全を担う人材の高齢化・黒川マイスター講座の受講生(修了生)の減少・日野の豊かな自然に興味を持つ市民を増やす
長期課題 (10～20年視点)	<ul style="list-style-type: none">・日常的に手を入れてくれる人材の確保・市民一人一人が自分で関心が持てる自然に対し行動ができる・新たに侵入してくる危険生物や有害鳥獣への対応
令和8年度の取り組み (予定)	<ul style="list-style-type: none">・市民環境大学、黒川マイスター講座を継続して開催する・カワセミハウスを拠点とした市民との協働による環境保全活動の継続

※今回から新しく課題として追加したものを赤字で表記しております。

iii 日野らしい自然の保全・育成

令和7年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・黒川マイスターによるカワセミハウス周辺緑地における希少植物の保全活動や外来種・園芸種の駆除・カワセミハウス敷地内及び隣接する市の緑地において市内に生育する希少植物の域外保全・カワセミハウス協議会主催で「オオブタクサ(外来種)引抜大作戦」開催・バタフライガーデンの取組を周知し、市民に生物多様性に関する興味・関心を持ってもらうきっかけとなる場づくりを実施
短期課題 (直近、3～5年視点)	<ul style="list-style-type: none">・地域の生きものや植生との整合性・日野の豊かな自然に興味を持つ市民を増やす
長期課題 (10～20年視点)	<ul style="list-style-type: none">・より「人と多様な生きものが共に暮らせる(主流化※1)」という目標に近づけた位置づけの検討・市民一人一人が自分で関心が持てる自然に対し行動ができる
令和8年度の取り組み (予定)	<ul style="list-style-type: none">・令和7年度に引き続き、バタフライガーデンを通じた生物多様性に関する興味・関心の向上を図る・カワセミハウス及び周辺緑地における希少植物の保全活動等を継続・カワセミハウス協議会主催で「オオブタクサ(外来種)引抜大作戦」開催

※1
生物多様性の保全と持続可能な利用を、日常生活を含む社会経済活動に組み込むこと

基本目標:ごみゼロのまち

関連計画	日野市ごみゼロプラン
計画の概要	「ごみゼロ社会」の実現に向けて、多様化する廃棄物の資源化や、さらなるごみ減量のための施策及び取組を示した計画
施策の方向	i 公民協働によるごみ減量の取り組みの推進 ii 情報発信・啓発によるごみ減量・資源化の推進 iii 広域連携の推進

i 公民協働によるごみ減量の取り組みの推進

令和7年度の取り組み

- ・ごみ排出量最少自治体を維持するため、引き続き広報、情報誌、アプリ等を活用して市民への発信・啓発を継続・強化する

短期課題
(直近、3～5年視点)

- ・行政のみでなく、公民協働によるごみ減量への新たな取組を検討する

長期課題
(10～20年視点)

- ・資源循環型社会の形成

令和8年度の取り組み
(予定)

- ・ごみ排出量最少自治体を維持するため、引き続き広報、情報誌等の紙媒体による発信・啓発を行う。また、SNSなど、情報発信に関する様々なツールが充実する近年の状況をふまえ、幅広い世代へ効果的に伝えるため、LINEやごみアプリなどあらゆる手段を積極的に活用した情報発信も展開していく

ii 情報発信・啓発によるごみ減量・資源化の推進

令和7年度の取り組み

・市内小学校17校施設見学実施

短期課題
(直近、3～5年視点)

・ごみ減量・資源化意識の啓発について、継続・強化していく必要がある

長期課題
(10～20年視点)

・ごみの更なる減量に向けた新たな取組

令和8年度の取り組み
(予定)

・更なるごみ減量に向け、市内小学校17校の小学4年生による施設見学、幼稚園・保育園への出前授業、施設見学イベント等により、環境学習の観点から子どもたちへの意識啓発を継続・強化していく

iii 広域連携の推進

令和7年度の取り組み

・日野市・国分寺市・小金井市の3市による3市ごみ減量推進市民会議で決定したテーマの具体的実施に向けた活動を行った

短期課題
(直近、3～5年視点)

・3市連携による更なるごみの減量

長期課題
(10～20年視点)

・資源循環型社会の形成

令和8年度の取り組み
(予定)

・浅川清流環境組合で可燃ごみ処理施設の共同処理を行う3市の市民とともに「3市ごみ減量推進市民会議」を開催し、各市のごみ・資源物処理の現状や、減量施策等の調査・研究を通して、3市の今後の取り組みについて提言をいただき、施策に反映していく

基本目標:心やすらぐ住みよいまち

事業根拠	生活環境に係る法令等
考え方	市民が健康で快適に過ごせる、心やすらぐ生活を確保するために、一人ひとりのマナー向上に向けた啓発等の取組み推進 身近な環境問題については、引き続き監視を続けるとともに情報収集を行い、市民生活のリスクの低減に努める。
施策の方向	i 日常生活を取り巻く環境の充実 ii 身近な環境対策の推進

i 日常生活をとりまく環境の充実

令和7年度の取り組み

- ・分煙環境を整備するため、路上喫煙禁止区域で禁止行為を行う方を対象とした声掛けを実施。あわせて日野市路上喫煙禁止条例のチラシやポケットティッシュを配布し、周知啓発を行っている
- ・歩行喫煙を禁止することを広く知らせる路面表示を、駅の周辺を中心に設置している
- ・保護猫活動に加え、「地域猫」活動など地域主体の取り組みの推進体制の整備(登録制度、補助事業の創設)
- ・災害時のペット同行避難など、生活分野と生き物分野との連携の促進
- ・有害生物(アライグマ、ハクビシン、スズメバチなど)駆除事業の実施、野生動物への対応マニュアルの作成

令和7年度の課題

- 【路上喫煙系】
- ・「日野市路上喫煙禁止条例」の施行以降、喫煙に関する苦情(店舗や隣家など市条例範囲外の私有地内でのトラブルも含む)は増えている。条例で規律できる範囲及びその内容と市民の期待値との間にズレが存在する
 - ・新たな路上喫煙禁止区域の設定は、既存区域(日野駅周辺)の効果や実態を踏まえて判断すべきだが、現時点では喫煙者への浸透が途上。「追加指定の是非」を判断するための制度成熟度と検証データが不足している
 - ・禁止区域での指導や声かけの頻度や偏りなどもあるが、守る人ほど損をする感覚が生まれやすい内容であることから、「指導」と「啓発」のバランスが運用上での課題である
- 【生きもの系】
- ・「動物の共生」は、市民・行政共に概念としては通りやすい一方で、それらについて具体的かつ共通となるような目標を設定することに課題がある。制度運用と合わせて、短期～中期で関係者と調整していく必要がある。
 - ・動物系施策は他施策との優先順位調整の中で、人員だけでなく財源の確保が難しくなりやすい。このため、補助金や寄附金等の外部財源の活用も含め、財源確保が課題である
 - ・災害時の同行避難の取組は防災安全課に協力して進めつつ、関係者の役割分担や取組内容の整理も必要
- 【野生動物系】
- ・イノシシ等の大型哺乳類対策は近年の出没増加等により注目される一方、行動圏が行政界を越えることや緊急性や専門性を要することから、市単独の取り組みや限られた人員のみでの対応には限界がある。このため、庁内(農業分野等)や市内関係機関との連携に加え、広域行政への要請も視野に入れた体制・役割分担の整理が必要である

ii 身近な環境対策の推進

令和7年度の取り組み

- ・大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、地盤沈下、悪臭、土壌汚染等の関係法令に基づく許認可・届出の受理及び指導を実施するとともに、日常生活に起因する生活環境に関する相談を受け付けた
- ・文書保存・能率性の観点から、一部の公害関連事務についてオンライン化を検討した

令和7年度の課題

- ・公害状況調査は基準値を満たしていた。経年変化などを念頭に、引き続き状況を注視していく
- ・公害苦情相談においては、匿名による相談内容の要求水準の高止まりや事実確認の困難さが生じ、対応に苦慮する案件がある。寄り添いと能率性との両立の観点から、対応手順や記録整理、進捗管理、対応基準等の整理が課題である
- ・オンライン化は都の事務委任に係る部分があるため、対象範囲を切り出しを含め着実に進められるようにしているが、都との調整が難航しがちである